

失われた時間は戻らない

この世は公平ではない。富豪に生まれる人もいれば、赤貧洗うがごとき境遇の人もいる。美男美女に生まれた者もいればそうでないものもいる。健康だったり、障害をもって生まれる子もいる。貧乏も障害も、不便ではあるが、不幸ではないという。それこそ種々さまざまではある。

しかし、天は全ての人にひとつだけ「公平」なことを作った。『時間』である。あらゆる人に等しく、1日は24時間である。

自分の時間を浪費されたら怒る人に限って（別に限らないが）、他人の時間に対しては鈍感で、意味なく待たせることが平気な人がいる。

ある人が、脊柱の手術後、筋力の低下がみられた。立てない、歩けない。そこで、リハビリテーションの可能性があるかどうか判断してもらおうと、2度にわたり新規に開院するから患者を紹介してほしい、とやって来た人がいる。そこなら自宅からも近い。この人に頼めばなんとかしてくれるかもしれない。細かな症状と投薬について詳細を書いてFAXで送れ、というからそのとおりにした。以前に、うつ病ではないか、と精神科を受診した結果（うつ病でもなんでもなし）も念のため送った。

午後2時に送ったところ、返事が全く来ない。午後4時に「まだですか」と催促すると、もう少し待て、という。5時にはだれもいなくなるから、それまでに返事が欲しいといったところ、わかりました、との返事。ところが5時になろうとするのに返事がこない。

しびれを切らして、再び電話をすると、「今電話をさしあげようとしたところでず。」とにこやかそうに言うからあきれてしまった、おまけに言うに事欠いて、「精神科のほうにこだわっておられるようだから、精神科で診てもらったらどうですか？」**アーン！！ 何言っとるんだ！**「3時間も待たせての答えがそれか！その程度の判断に3時間もかかるのか！ 診ないなら診ないと、もっと早く連絡してくれれば、ほかの方法をさがすのに、3時間も忙しい家族を待たせ、まったく無駄な時間をつぶされた。・・・それならT市立病院と同じじゃないか・・・よしわかった、二度と頼まない！」

ここまで虚仮にされて、沈黙する（泣き寝入りする）選択は小生の人生観にはない。・・・明らかな診療拒否ではないか。

翌日、2度にわたって訪問してくれたN氏に経緯をはなす。「個人病院は、そんな……(以下不明瞭だが、申し訳ありません、と言っていたような気がする。)」……話はこれで終わり、のはずである。ところが、夕方、帰宅する準備をしていると、昨日の地域医療室の男がノコノコやってきてモゴモゴという。何を言っているのかわからない。昨日の電話でのおちよくったような言い方ではない。謝罪に来たつもりらしいが、まともに話もできていない。電話ではわからないだろうが、オレの顔を見て、ぶん殴られるかもしれない、と恐怖心が湧いてきて言葉がでてこないのだろうか。……**まだ、オレの時間をつぶすつもりか！！**……こんな低脳相手に、傷害罪に問われるようなことをするはずもないのにな。……電話ではいきなり殴られる恐れはないからネ。

どうせ、5時すぎてから電話をしてきて、「電話をしたけれども、どなたもでられませんでした」とでも言うつもりだったのだろう。もういいから帰ってくれ。オレの時間をこれ以上無駄にしたくない。

この程度の男に、3時間待たせて精神科、などという知恵はないだろう。どうせ医者が、「待たせておけ、そのうち時間切れになったらあきらめよるやろから」などと診察する気もないのに言ったのだろう。

この、他人の時間を3時間無駄にし、他の方法をさがすのが翌日になってしまったから20時間以上にわたり浪費させ、理由なく診療拒否をした病院の名は、東豊中〇辺病院。

それはさておき、病院の話がでたついでにと言えば語弊がありそうだが、その後、被害児は、不思議なことに一度も原因不明の発熱(尿路感染症と思われるのであるが)のエピソードがなくなったのである。何の話か？

半年以上前のことになる。某市民病院の小児科の話を書いた。(モラル・ハザード 3)その後日談である。現在通院中の病院の小児科部長は、この経緯に驚きあきれ、的確な診断をしてくれた小児科の医師は、「帰らせ方が悪すぎる。」成人病センターの現役婦長は、「点滴で麻酔薬を投与するなら全麻(全身麻酔のこと)じゃない！ そのおかあさんは、自分の車で来てはったんやと思うねん。(オマエはシャーロック・ホームズか！ そのとおりのやねんけど) そうでなかったら連

れて帰るなんてでけへんかったはずで、それくらい全麻は大変なんよ。即日帰宅させるなんて、無茶やわ！」

まともな人の話をすべて記録する気はないが、元婦長や看護部長などみんな同じような意見であった。

さらなる後日談、ある製薬会社のMRさんが、「読ませていただきましたが、どこの病院ですかあ？」たまたま傍らにいたよその会社のMRさんがアア。「北摂の公立病院で、市民病院というのはひとつしかないねん！」

謝罪しました、と総長が書いてきているが、家族に謝罪はあったのか？と尋ねると、いいえ、全然！・・・・・・もう信義もへったくれもない。格好だけ取り繕っているだけの話。看護部長と称する女は、「行き違いがあったようですが、説明いたします。そのためには、ご足労願わないと・・・・」と言ったそうだが、オレと一緒にいて行くのが条件だ。そのときには、現場にいた全員が揃っていることが必須になりますが・・・・・・無駄な時間をつぶしたくないから・・・・・・天に恥じるところがなければ、疚しいところがなければ、絶好の釈明の機会だと思うのだが、まあ、期待せずに待っていますよ。

何せ、それ以来何の策動も情報もない。奴らの中では、もう済んでしまった話なのだろう。自己保身のみを考えている連中にしてみれば、あまり話題にしたくない話ではある。

「もう、なんでもありですネ（笑）」とは、ラグビーの五郎丸選手のルーティーンである拝むポーズをいろんな人が真似をするが、少しずつ間違っていることに対して彼の語ったこと。

2016. 01. 16.